

令和5年9月

令和5年	7月	～	9月期	実績
令和5年	10月	～	12月期	見通し

中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

目 次

主要景況項目の動き.....	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移	23
* 平成15年1月以降	
〔集計資料〕	

D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

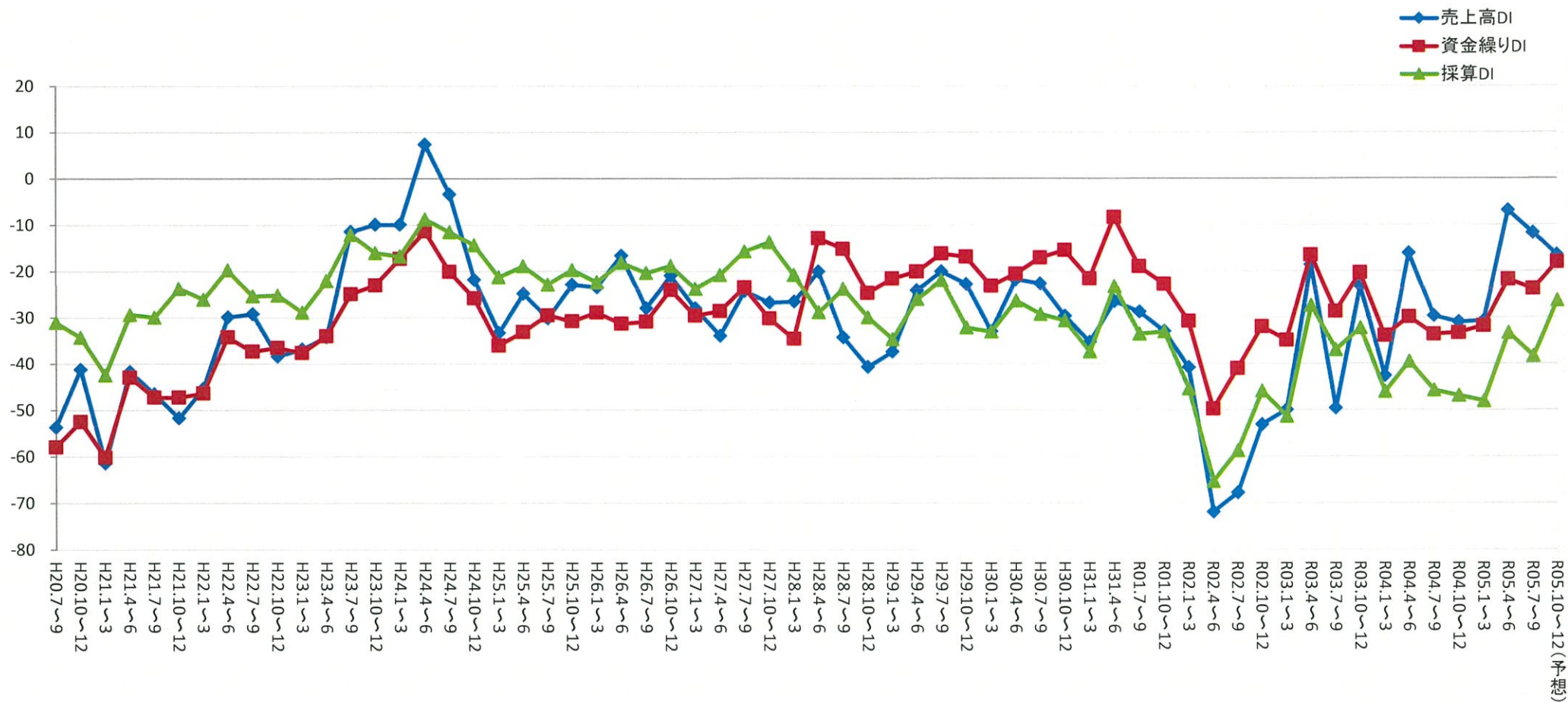
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。

たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、 $D・I = 50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。

[岩手県 産業全体]

主要景況項目の動き ―前年同期比―



業 況 天 気 図

期 間 業 種	令和3年 10～12月	令和4年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	令和5年 1～3月	4～6月	(今期) 7～9月	(見通し) 10～12月
製 造 業	 曇	 雨	 晴	 薄 曇	 曇	 曇	 曇	 雨	 曇
建 設 業	 曇	 曇	 薄 曇	 曇	 雨	 雨	 曇	 雨	 雨
小 売 業	 雨	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 曇	 薄 曇	 曇
サ ー ビ ス 業	 曇	 雨	 雨	 雨	 雨	 曇	 晴	 晴	 薄 曇

売 上 高 D I	100.0 ～30.1	30.0 ～10.1	10.0 ～△10.0	△10.1 ～△30.0	△30.1 ～△100.0
表 示	 快 晴	 晴	 薄 曇	 曇	 雨

全産業の推移

売上高

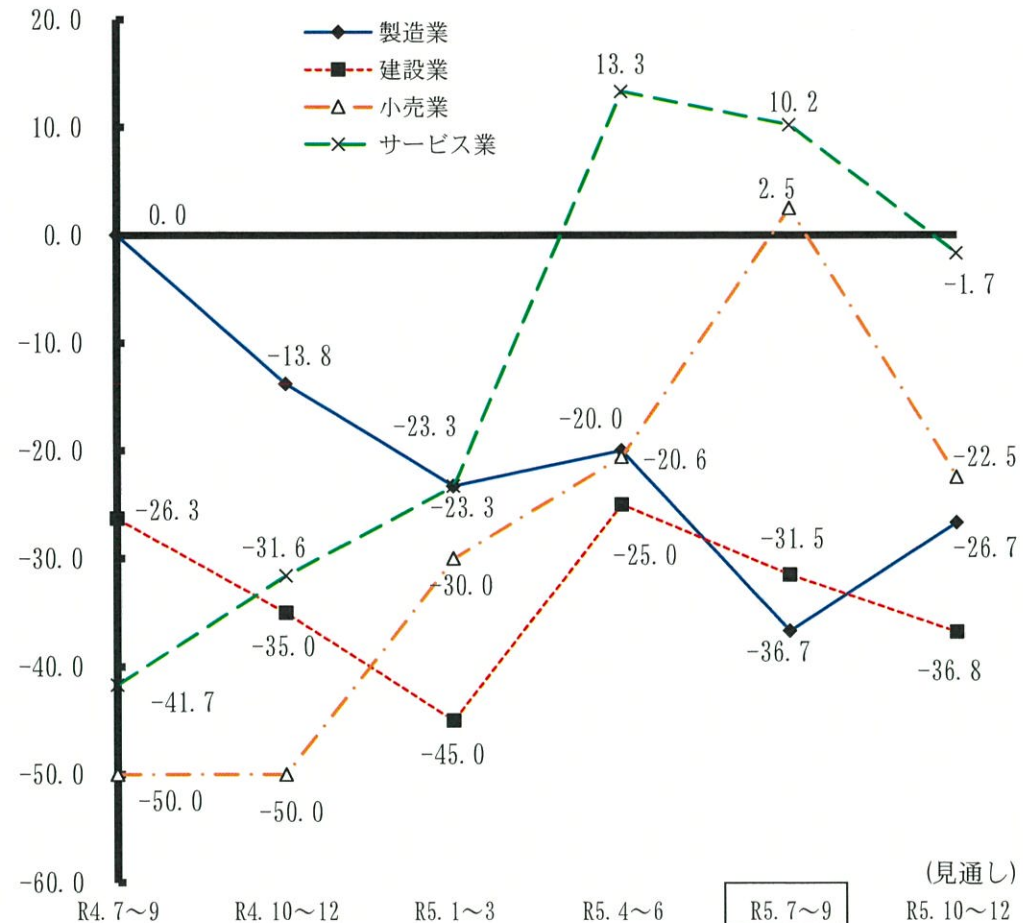
小売業の売上高D・Iが3期連続の上昇 建設業、製造業は悪化に転じる

今期の売上高D・Iは、小売業が3期連続の上昇となり、記録の残る平成15年1月～3月期以来20年ぶりにプラス域まで回復しました。サービス業は低下に転じたものの引き続きプラス域にとどまっています。他方、前期改善傾向がみられた建設業、製造業が悪化に転じています。

小売業は23.1ポイントの大幅な上昇となり2.5まで改善、サービス業が3.1ポイント低下して10.2、建設業と製造業が低下に転じ、建設業が6.5ポイント低下して△31.5、製造業が16.7ポイントの低下により△36.7までそれぞれ悪化しています。

来期は、製造業において改善が見込まれるものの、サービス業、小売業は悪化に転じ、建設業においては2期連続の悪化となる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



全産業の推移

採 算

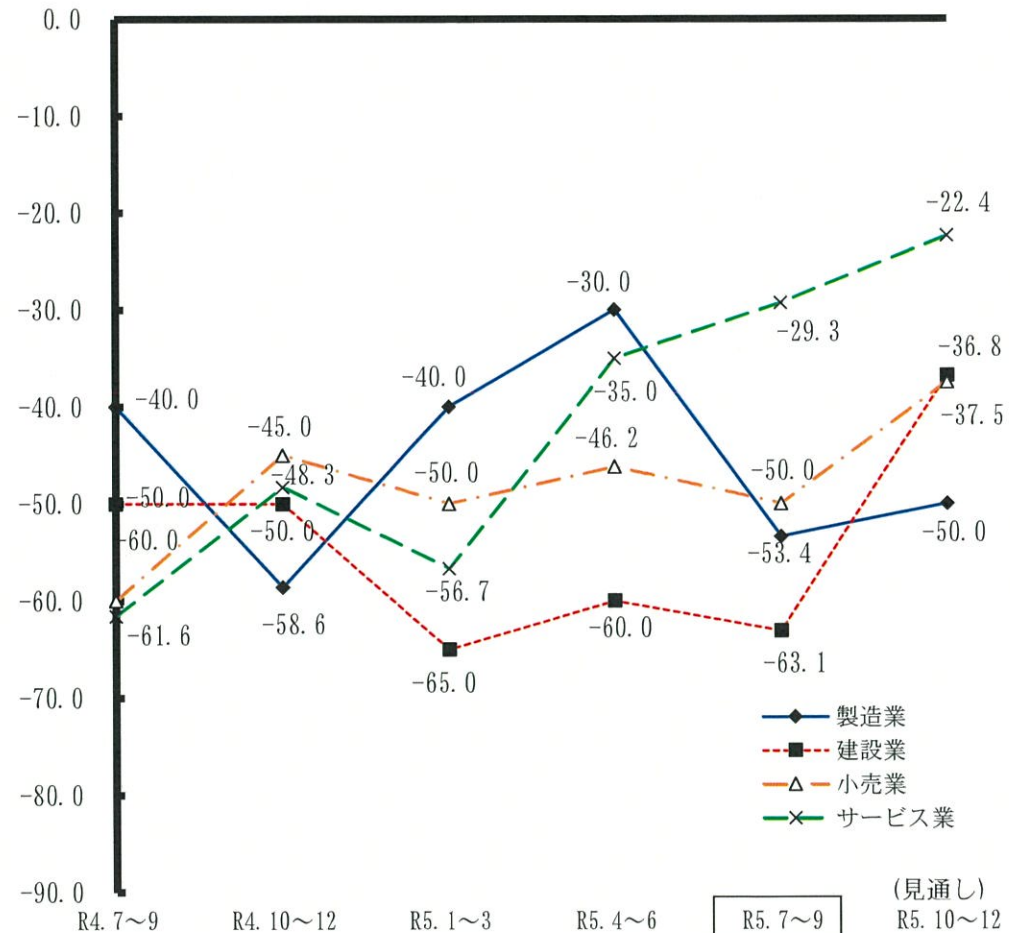
サービス業が2期連続の改善
製造業、小売業、建設業が悪化

今期の採算D・Iは、サービス業が2期連続の改善となりましたが、前期改善傾向にあった製造業、小売業、建設業は悪化に転じています。

サービス業は5.7ポイント増加して△29.3まで改善、小売業は3.8ポイント低下の△50.0、製造業は23.4ポイントの大幅な低下により△53.4まで悪化、建設業も3.1ポイント低下して△63.1まで悪化し、低いレベルで推移しています。

来期は、2期連続して改善が見られたサービス業が引続き改善する見通しであり、小売業、製造業、建設業も改善に転じることが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



全産業の推移

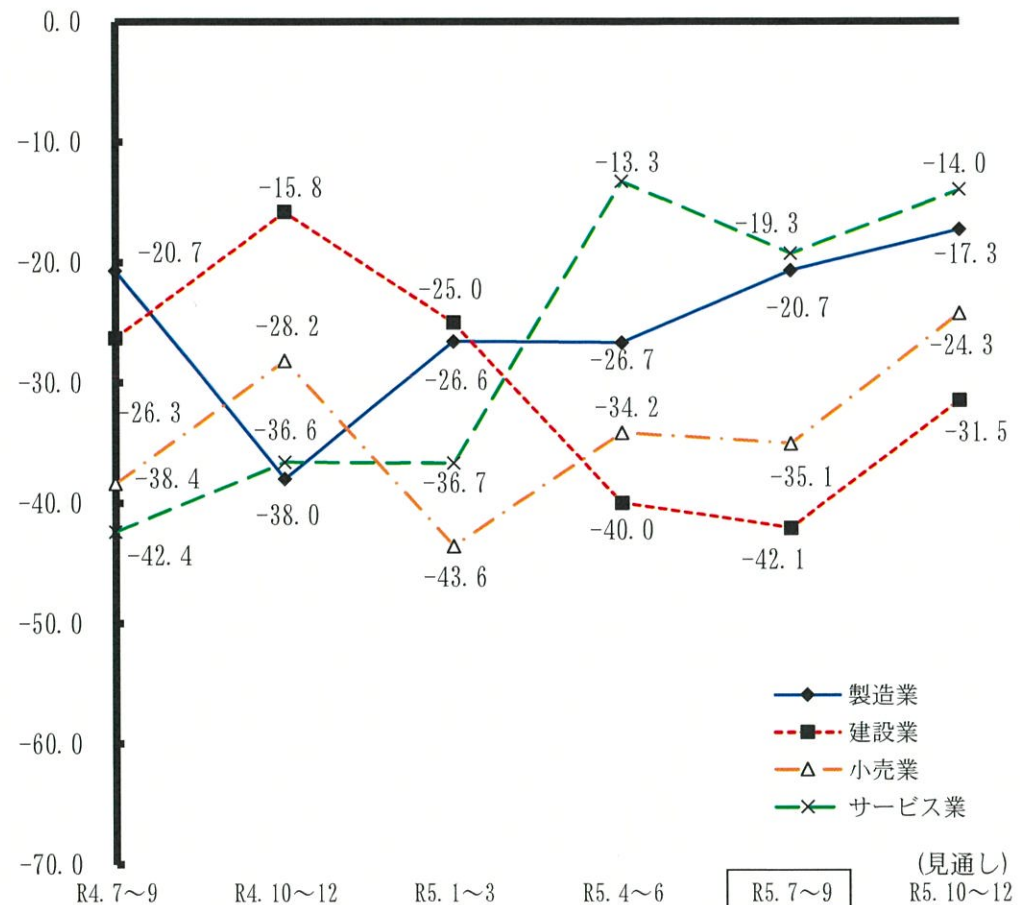
資金繰り

製造業は資金繰りが改善
サービス業、小売業、建設業が悪化

今期は製造業において資金繰りD・Iが改善しましたが、前期改善傾向にあったサービス業、小売業が悪化に転じています。建設業は3期連続の悪化となっています。

製造業は改善となり、6.0ポイント上昇して△20.7、前期大幅に改善していたサービス業は悪化に転じ、6.0ポイント低下して△19.3、小売業も僅かながら低下して△35.1、建設業は3期連続の低下となり△42.1まで悪化しています。

来期は、全業種において資金繰りD・Iが改善することが予想され、製造業は2期連続の改善となるが見込まれています。



製造業の推移

売上高

<今 期>

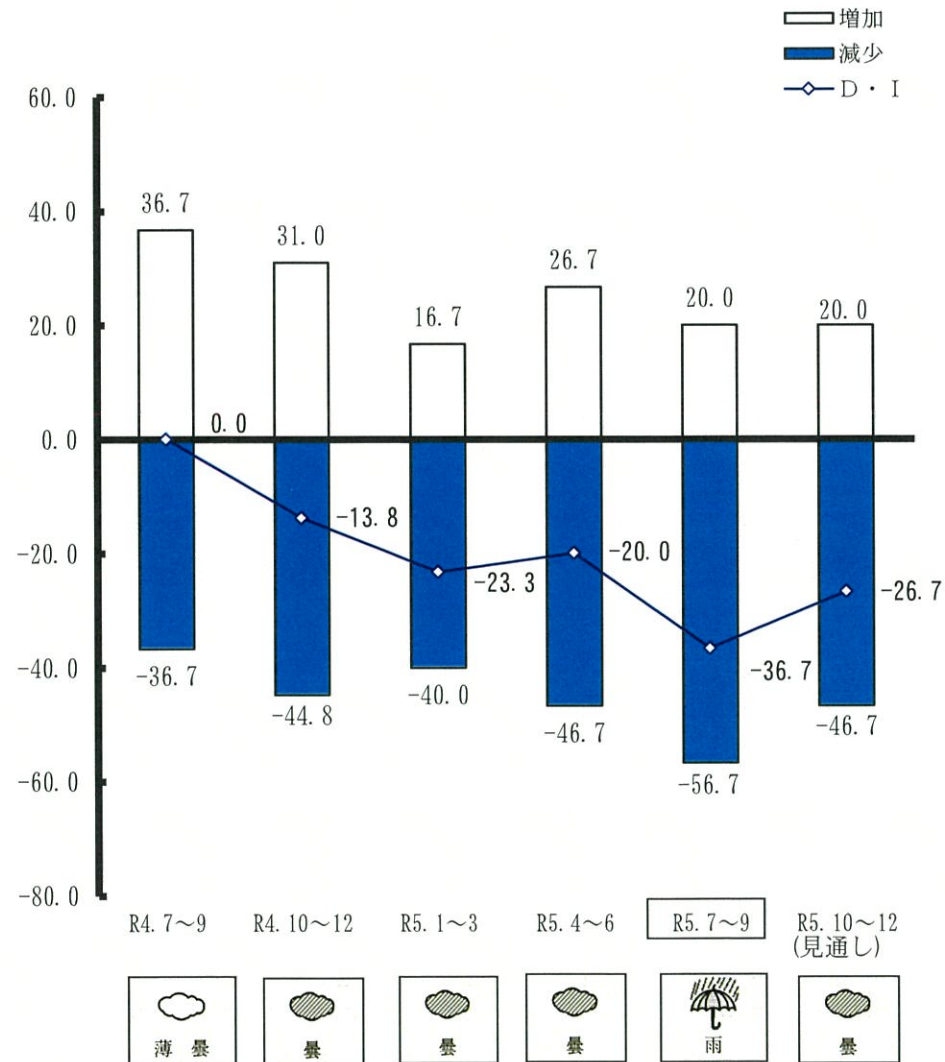


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が6.7ポイント減少し、売上高減少企業の割合が10.0ポイント増加したことから、売上高D・Iは16.7ポイントの低下となり△36.7となっています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業割合が減少することから、売上高D・Iは上昇に転じ、景況天気図も雨から曇りへと変化する見通しです。



製造業の推移

採算

<今 期>

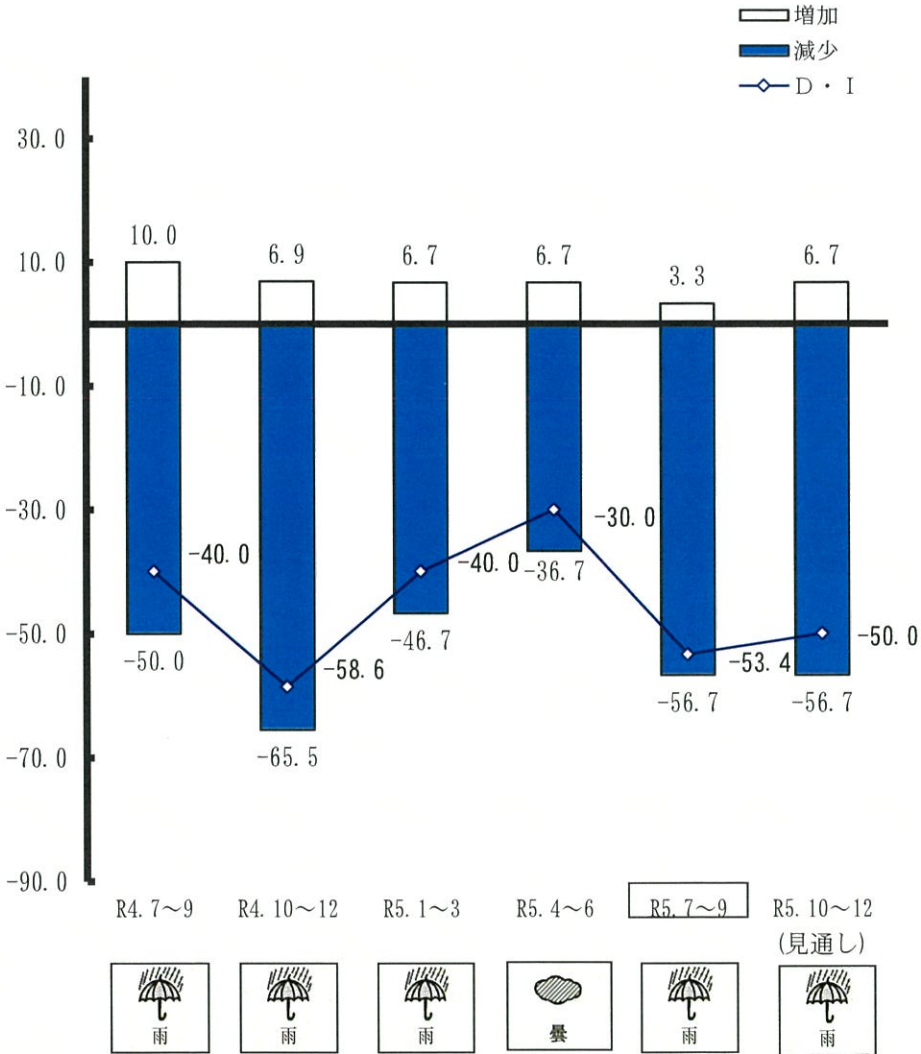


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合は3.4ポイント減少し、採算が悪化した企業の割合が20.0ポイントの大幅な増加となったことから、採算D・Iは23.4ポイントの低下となり、△53.4まで悪化しました。

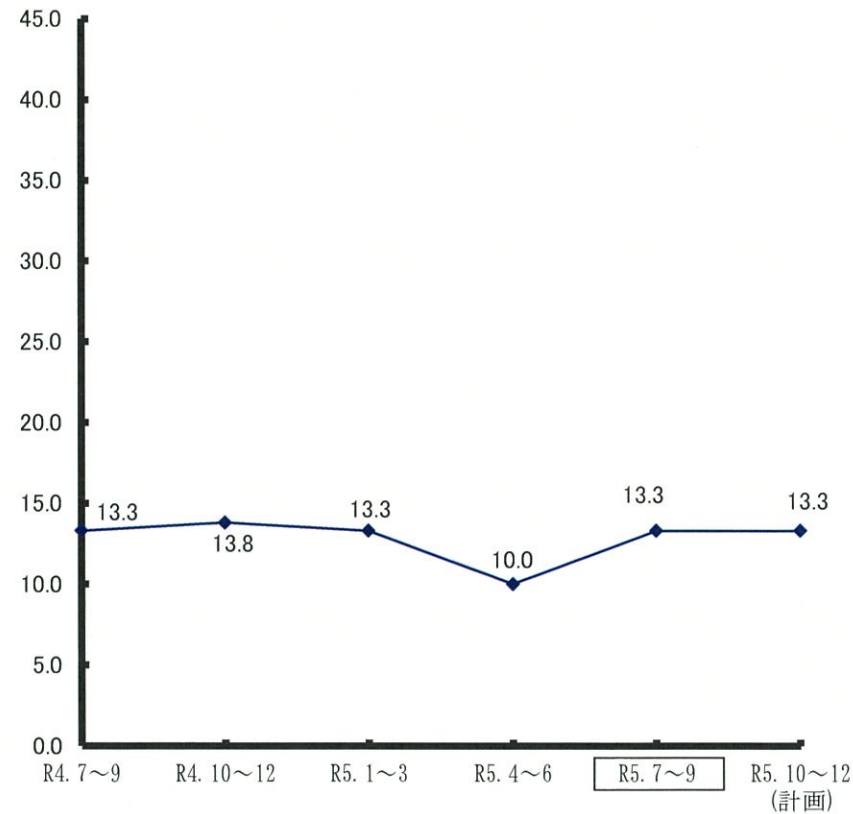
来期は、採算の改善を予想する企業が増加に転じ、採算の悪化を予想する企業が横ばいとなり、採算D・Iは、改善に転じるものの、依然として低いレベルにとどまることが予想されています。



設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合は増加となり、13.3となっています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は今期と同じレベルにとどまることが予想されています。



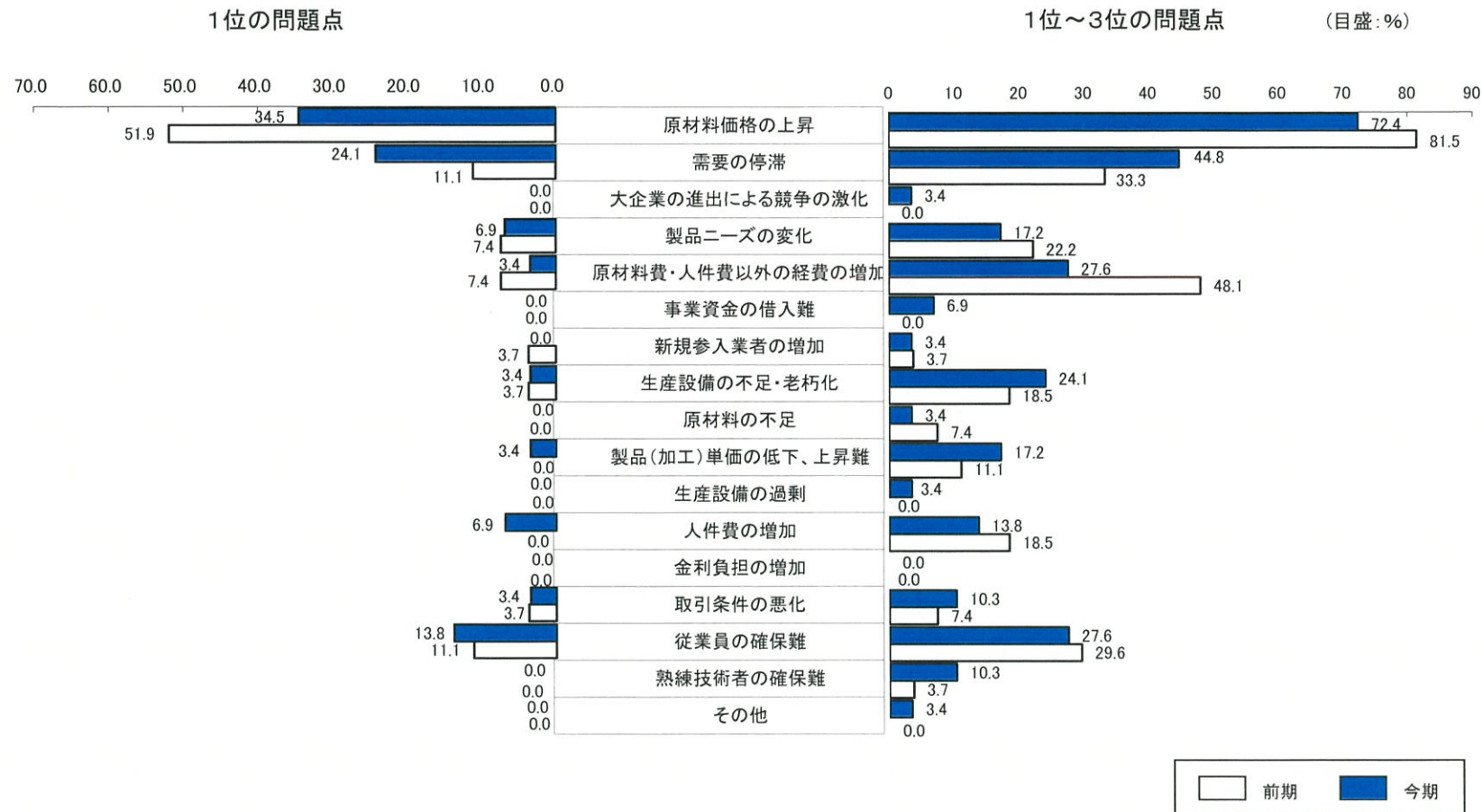
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

製造業の推移

経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



売上高

<今 期>



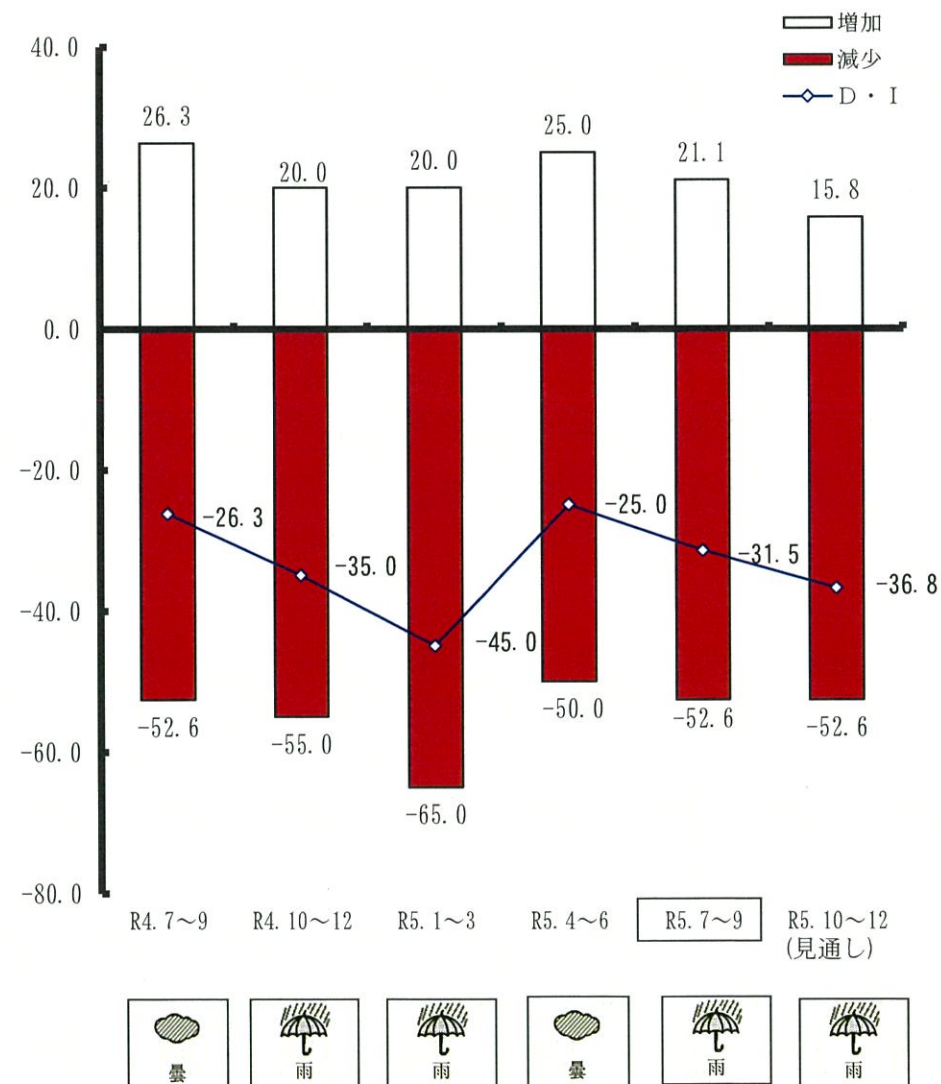
<来期見通し>



前期改善傾向にあった建設業の売上高D・Iは、再び悪化に転じています。今期は、売上高が増加した企業割合が3.9ポイント減少し、売上高が減少した企業割合が2.6ポイントの増加となったため、売上高D・Iは低下に転じ、△31.5まで悪化しています。

来期は、売上高の減少を予想する企業の割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の増加を予想する企業の割合が今期に引続き減少となることが見込まれることから、売上高D・Iは2期連続して悪化することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



採算

<今 期>

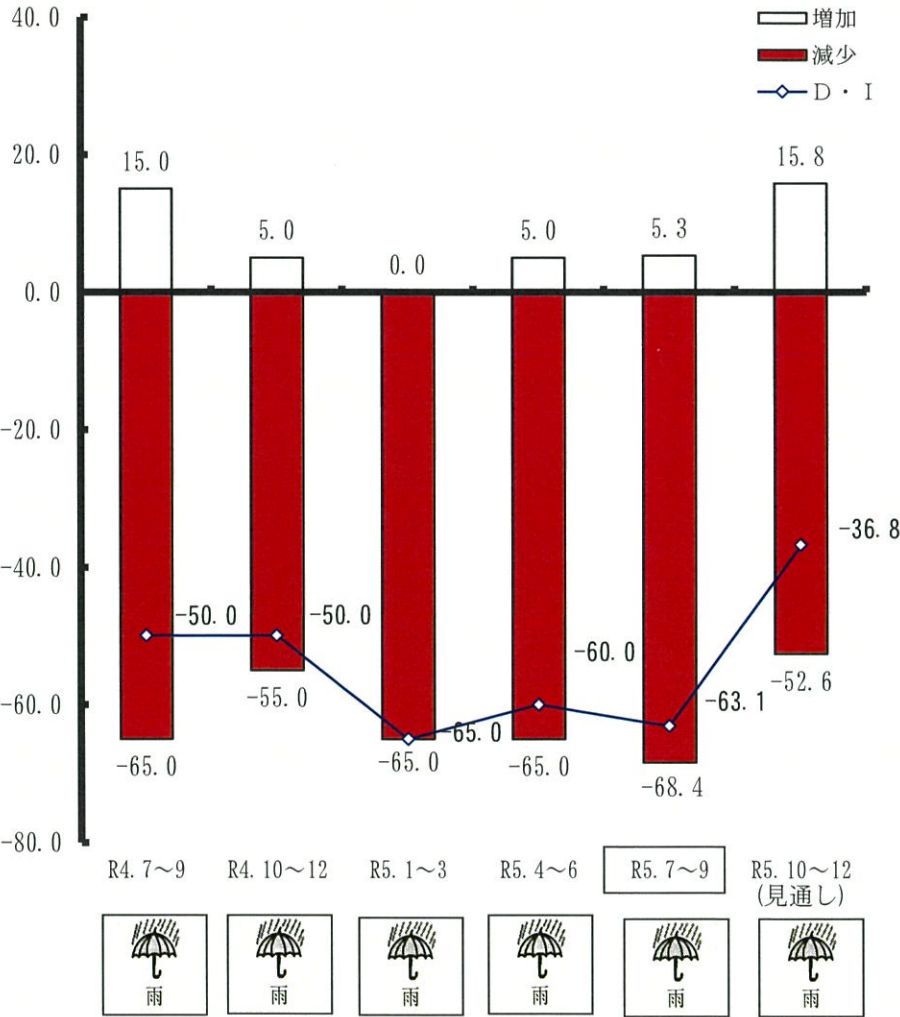


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、ほぼ前期と横ばいにとどまり、採算の悪化を挙げた企業の割合が僅かながら増加したため、採算D・Iは3.1ポイントの低下し、依然として△63.1の低いレベルで推移しています。

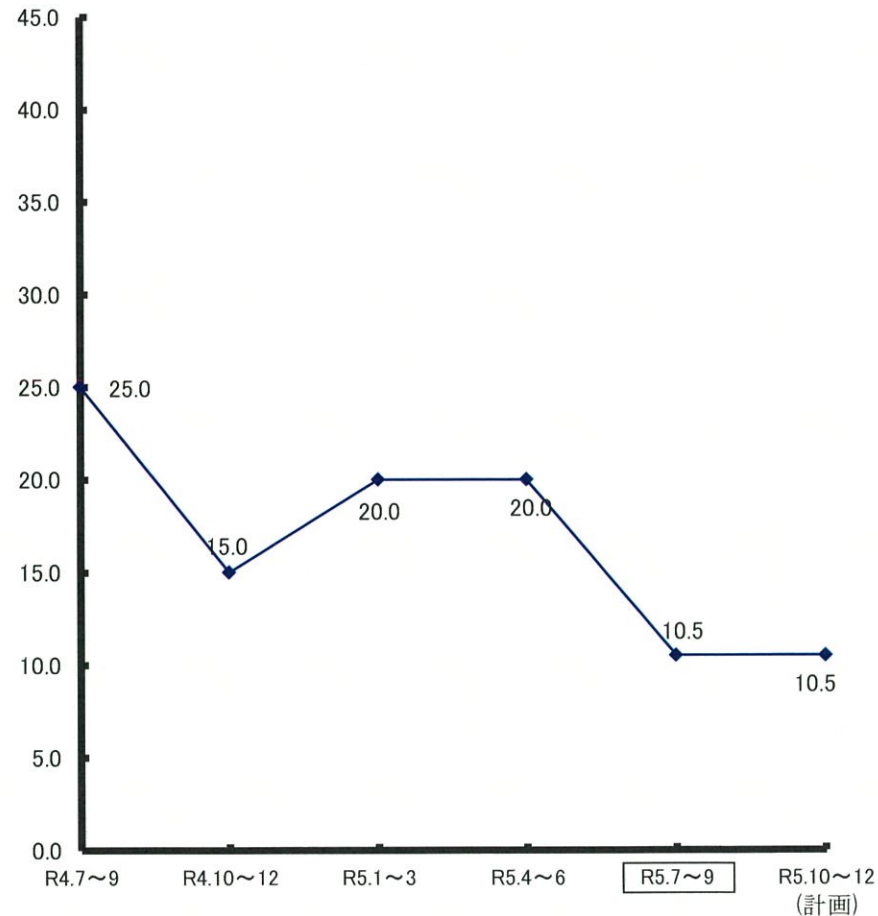
来期は、採算の改善を予想する企業が増加し、採算の悪化を予想する企業が大きく減少することから、採算D・Iは大幅に改善することが予想されています。



設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期より大幅に減少し、10.5にとどまりました。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期と横ばいにとどまり、今期と同レベルの10.5程度となることが予想されます。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

建設業の推移

経営上の問題点

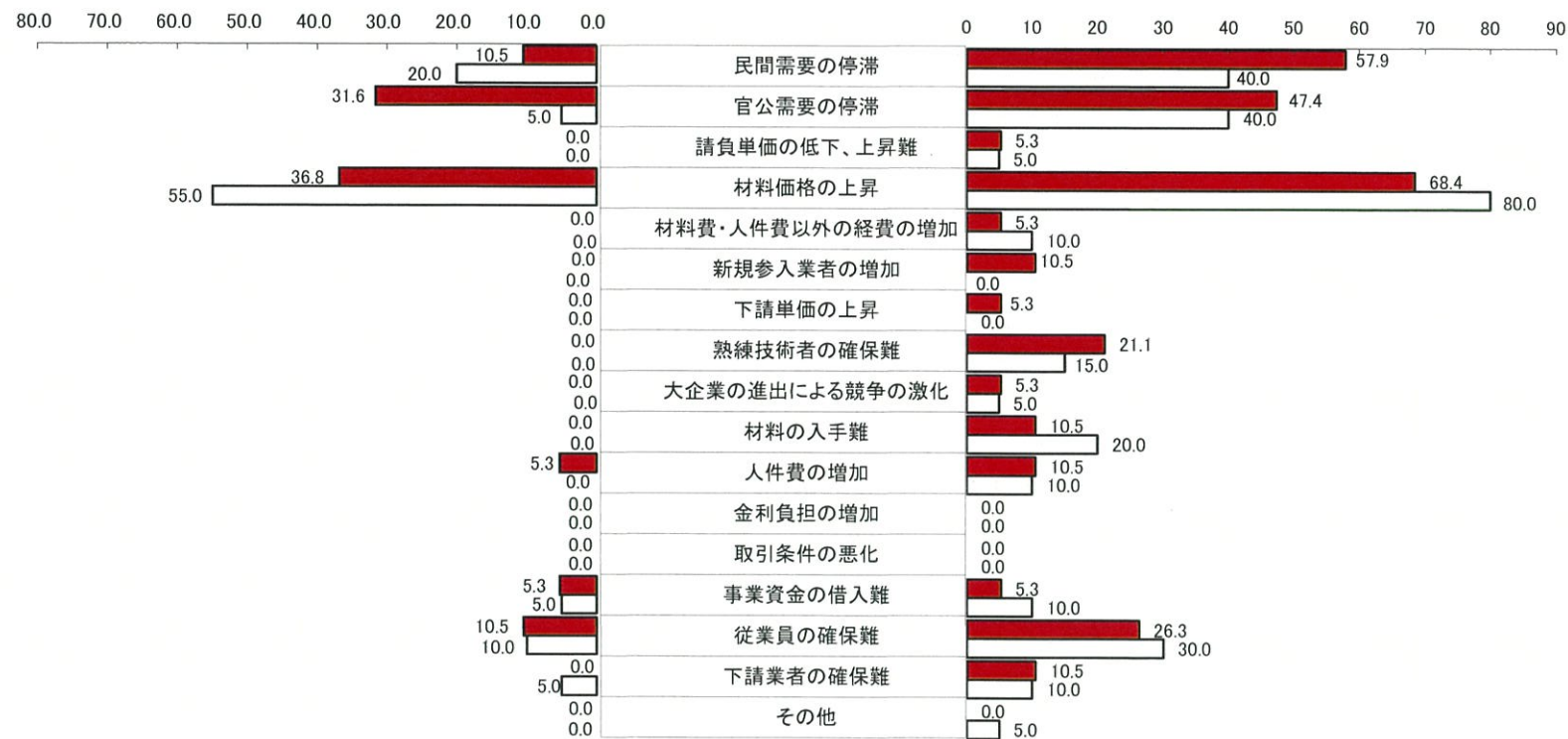
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛: %)



小売業の推移

売上高

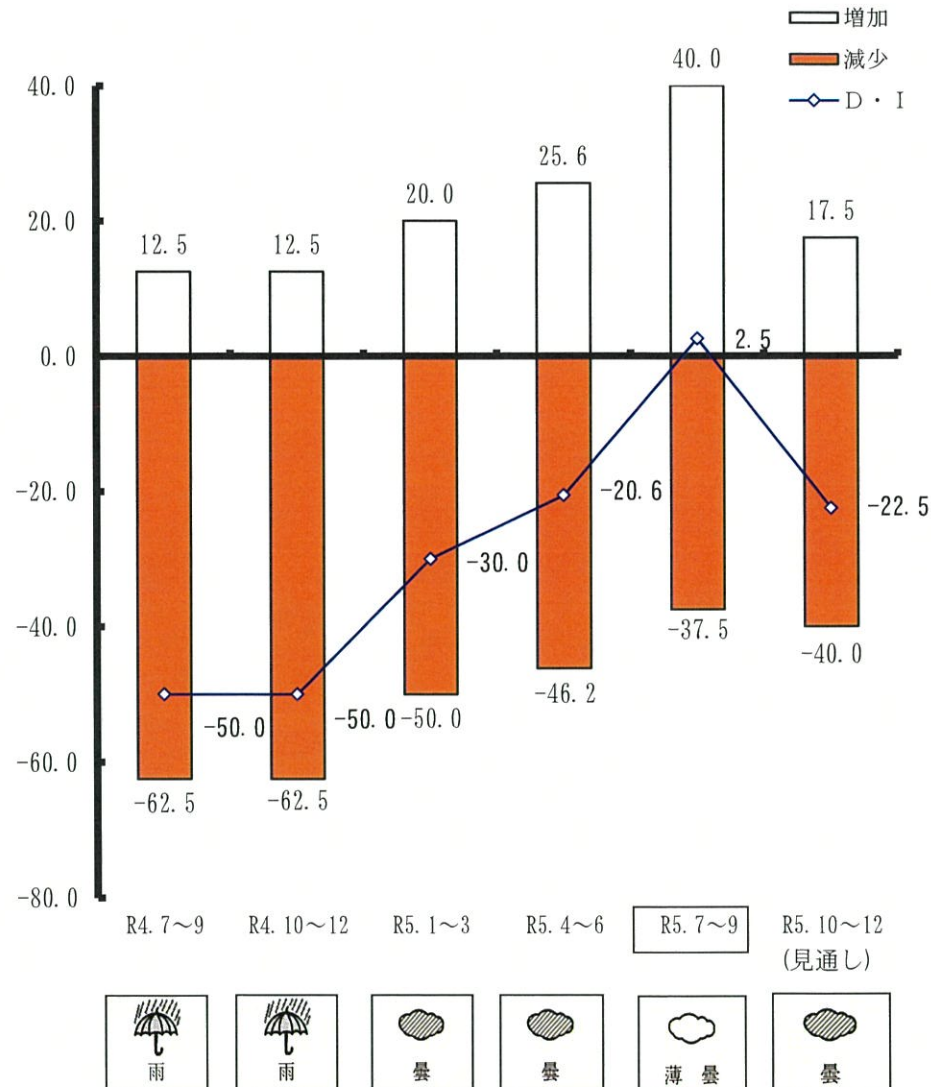
<今 期>

<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が増加し、売上高減少企業の割合が減少したことにより、売上高D・Iは23.1ポイントの大幅な増加となり、3期連続の増加により記録の残る平成15年1月～3月期以来20年ぶりにプラス域に達し、2.5まで回復しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が減少し、売上高減少を予想する企業割合が増加することが見込まれるため、売上高D・Iは再び悪化に転じ、景況天気図も薄曇りから曇りへと変化する見通しです。



小 売 業 の 推 移

採 算

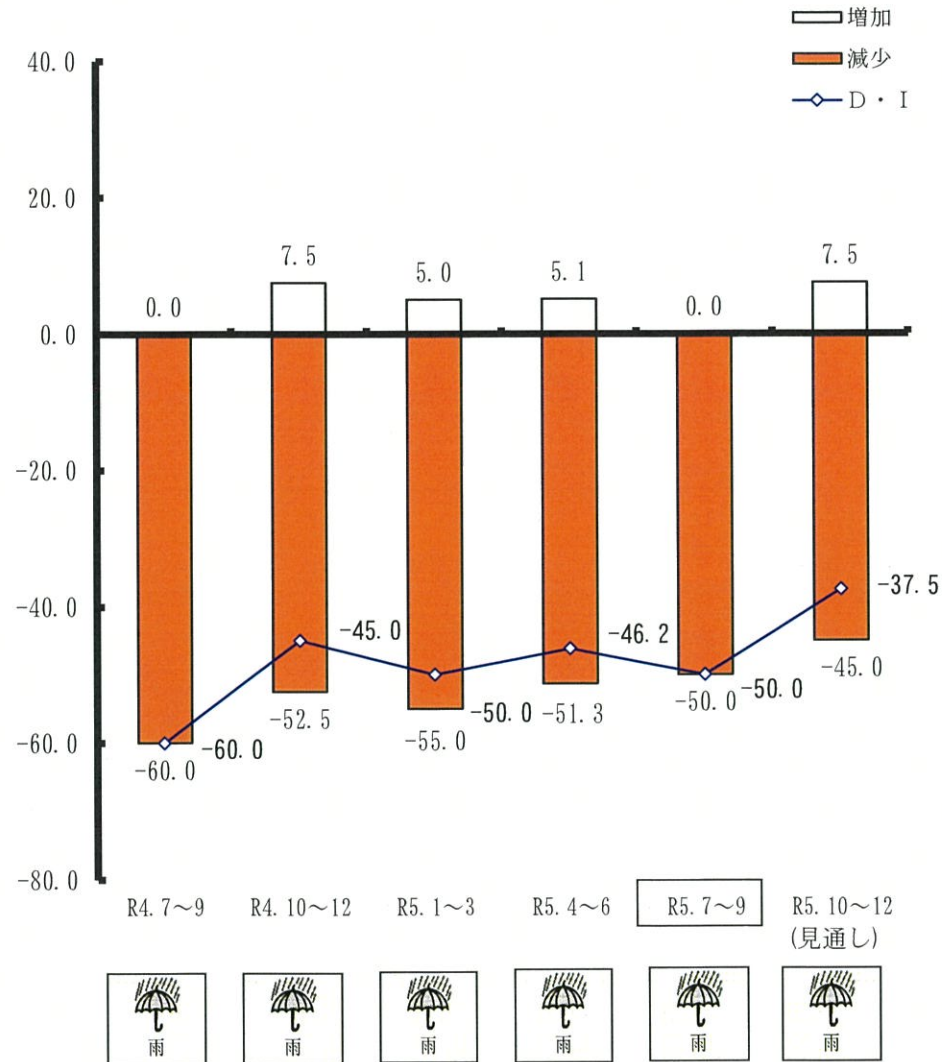
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合はゼロとなり、また、採算が悪化した企業割合は1.3ポイントの小幅な減少となったため、採算D・Iは3.8ポイント低下し、△50.0となり、依然として低い水準にとどまっています。

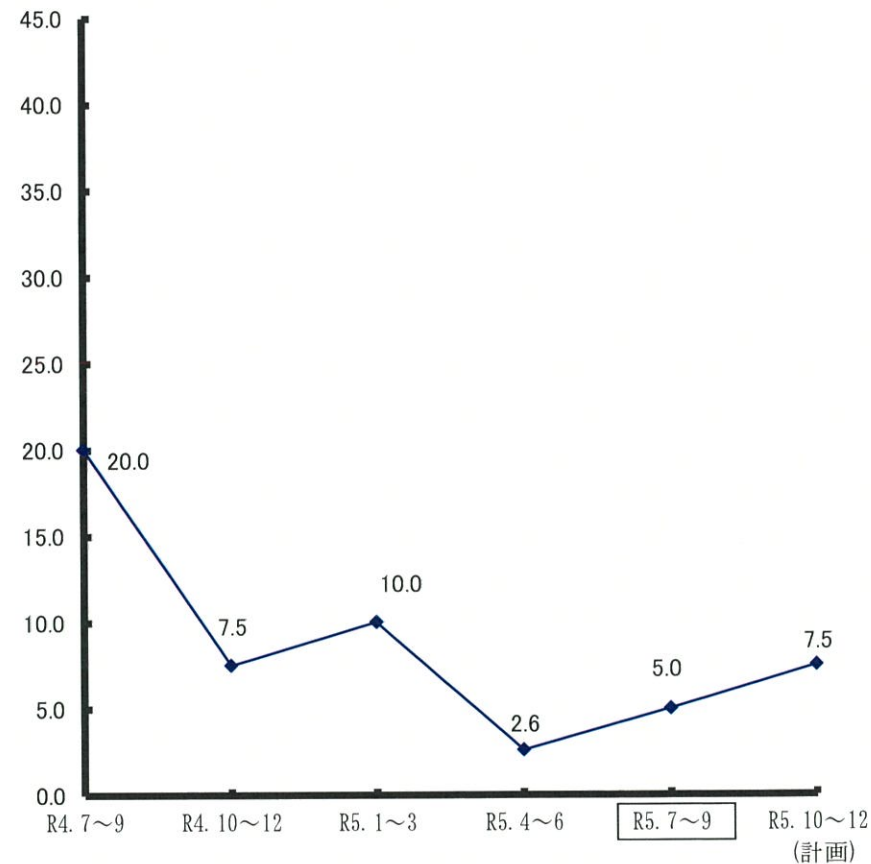
来期は、採算の好転を予想する企業割合が増加し、また、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは改善する見通しです。



設 備 投 資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は増加したものの5.0と低い水準にとどまっています。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合は増加し、7.5まで増加する見通しです。



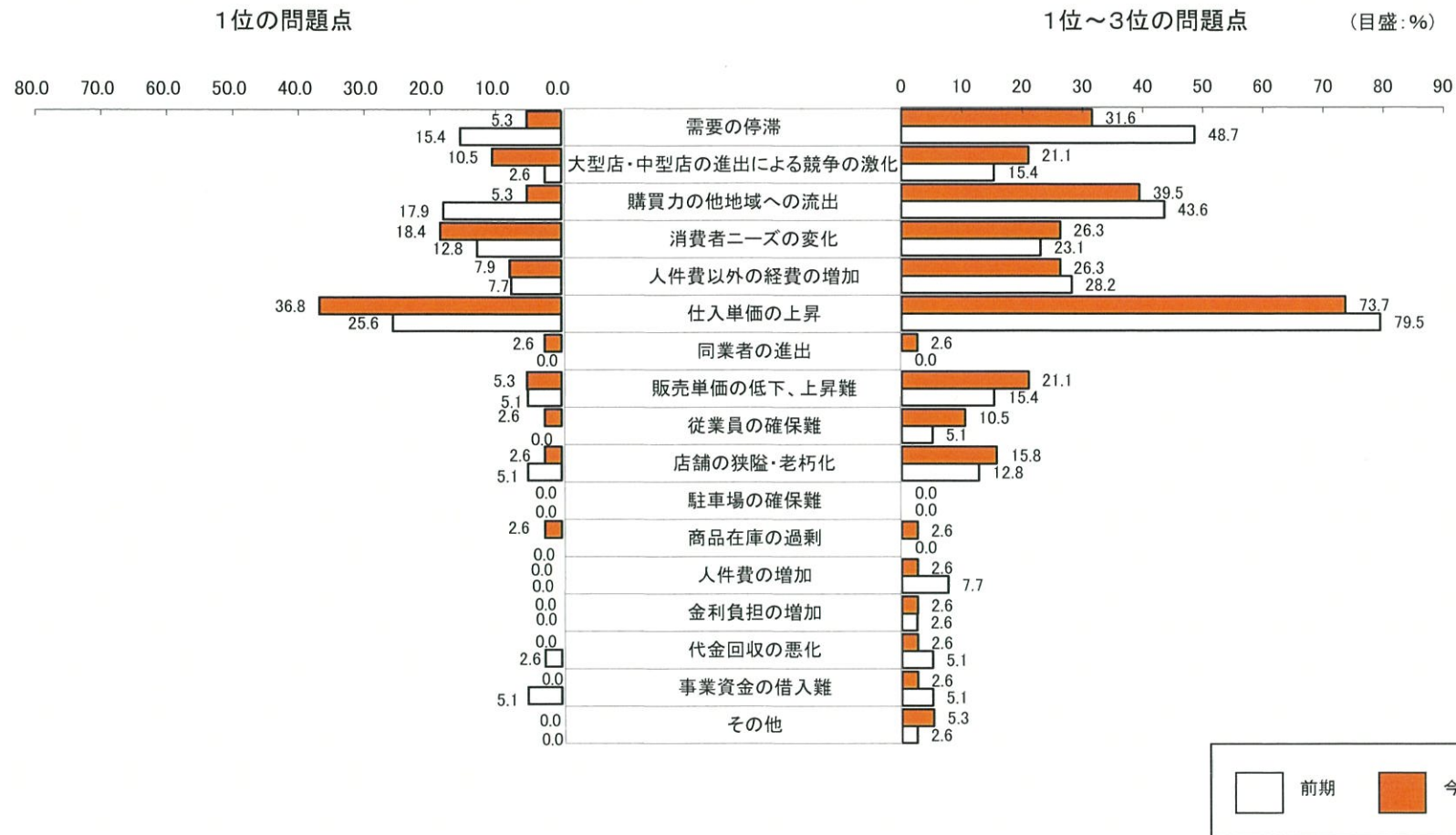
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

小売業の推移

経営上の問題点

岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



サービス業の推移

売上高

<今 期>

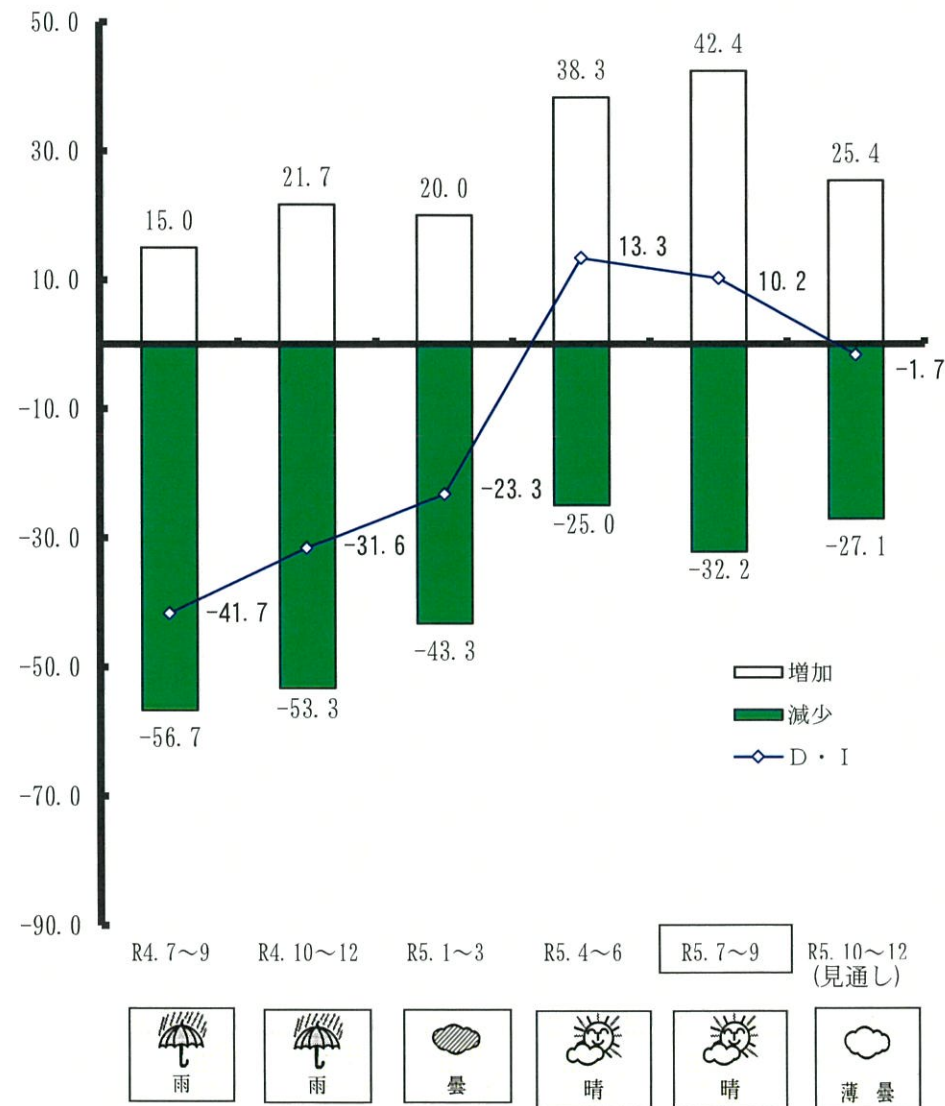


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が4.1ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が7.2ポイント増加したため、売上高D・Iは3.1ポイントの低下して10.2となりましたが、前期に引続きプラス域にとどまっています。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少に転じる一方、売上高減少を予想する企業割合も減少することから、売上高D・Iは悪化し、マイナス域となることが予想されています。



サービス業の推移

採算

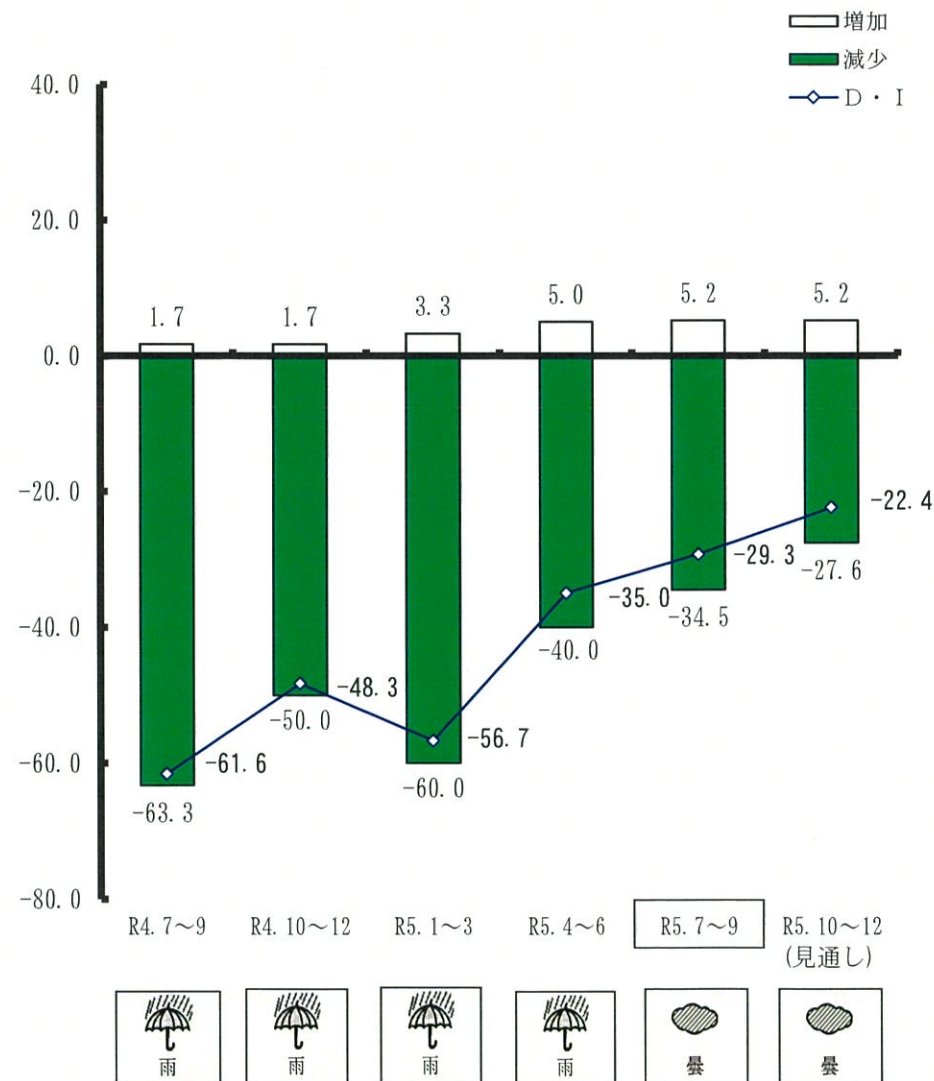
<今 期>

<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合がほぼ前期と横ばいの5.2にとどまったものの、採算が悪化した企業割合が5.5ポイント減少したことにより、採算D・Iは2期連続して上昇し、△29.3まで改善しています。

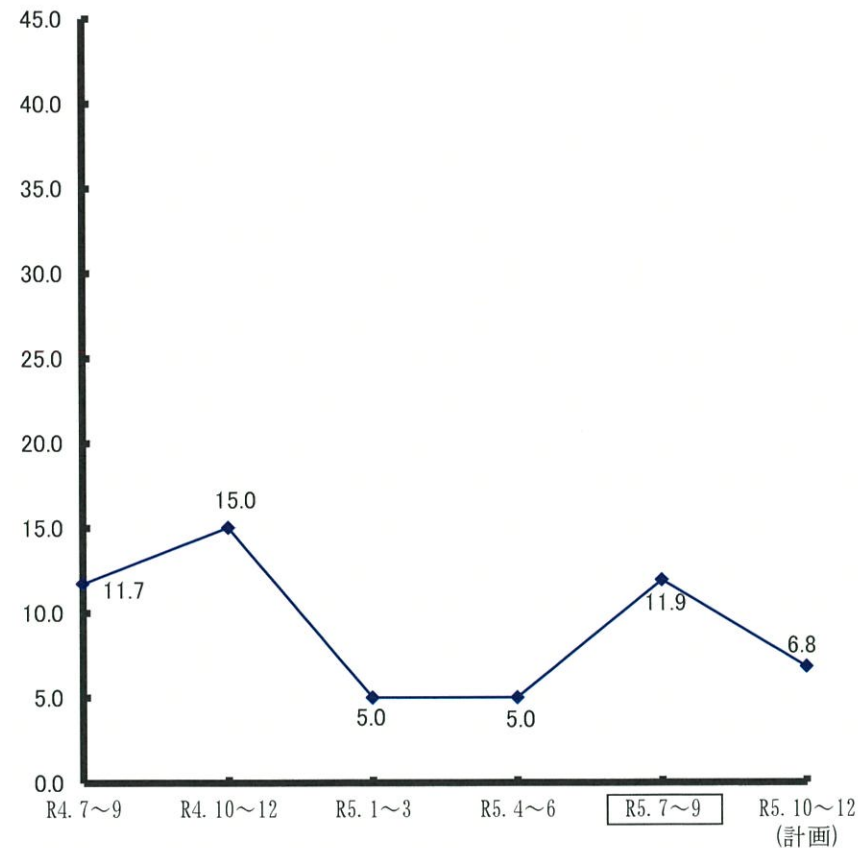
来期は、採算の改善を予想する企業割合が今期と横ばいにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が今期に引続き減少することから、採算D・Iは上昇傾向が続き、△22.4まで改善する見通しです。



設備投資

今期設備投資を実施した企業数の割合は上昇に転じ、11.9まで増加しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は再び減少に転じ、6.8程度にとどまる見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

サービス業の推移

経営上の問題点

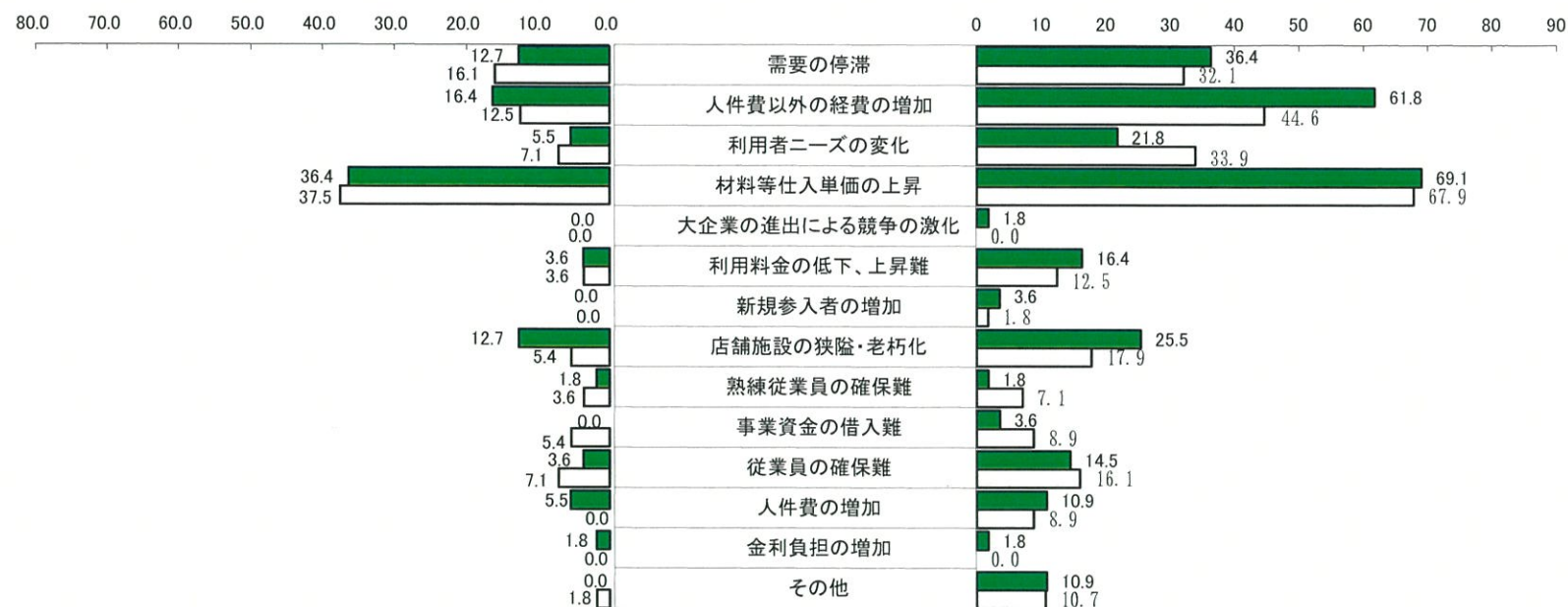
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

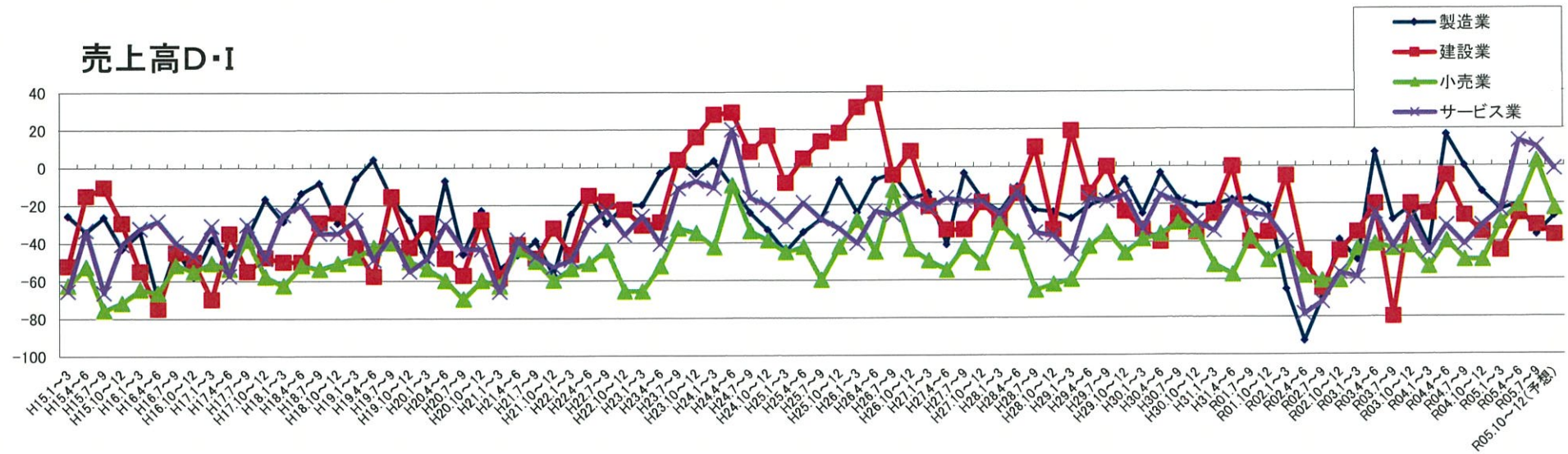
1位～3位の問題点

(目盛:%)

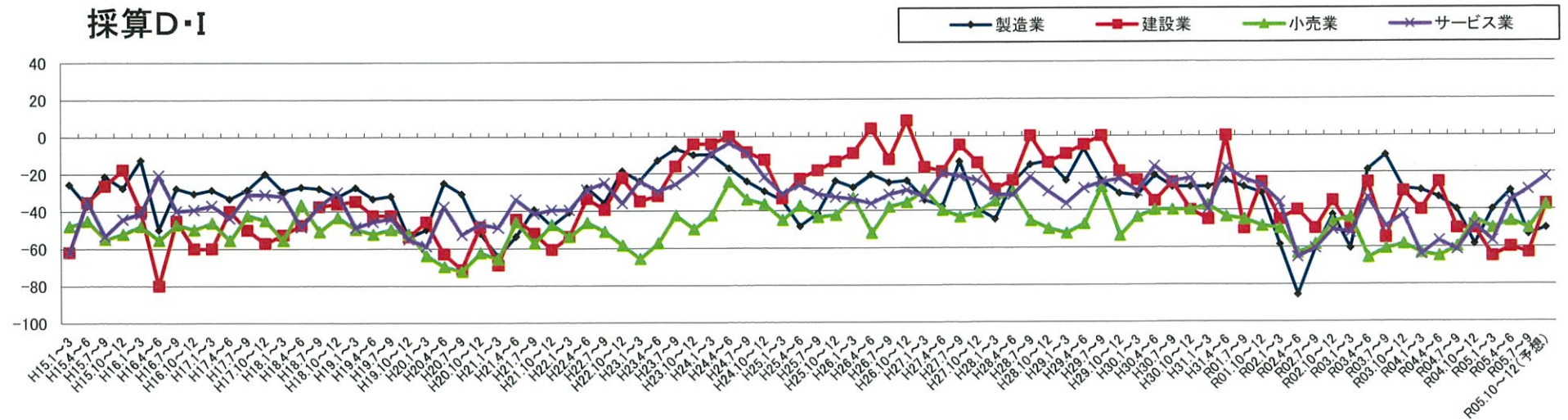


全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)

売上高D・I



採算D・I



集 計 資 料

調 査 要 項

- | | | | | |
|----------------|--|-----------|------------------------------|---------------------|
| 1. 調 査 対 象 | (1) 対象地区 | 県内10商工会地区 | 遠野、陸前高田、雫石、岩手町、紫波町
(商工会名) | 西和賀、田野畑村、普代、軽米町、九戸村 |
| | (2) 対象企業数 | 150 | 企業 | |
| | (3) 回答企業数 | 148 | 企業 | |
| 2. 調 査 対 象 期 間 | 令和5年7月～9月を対象とし、調査時点は令和5年9月1日としました。 | | | |
| 3. 調 査 方 法 | (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。 | | | |
| | (2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。 | | | |

4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 (%)
製造業 (地域産業)		30 (20.0)	30 (20.3)	100.0
建設業		20 (13.3)	19 (12.8)	95.0
小売業		40 (26.7)	40 (27.0)	100.0
サービス業		60 (40.0)	59 (39.9)	98.3
		150 (100.0)	148 (100.0)	98.7

(注) カッコ内の数字は、構成比(%)を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（上昇、好転、長期化）企業割合と減少（低下、悪化、短期化）企業割合の差を示すものであります。